



いと派手に声掛けてくる毒茸

竹下和宏

毒茸を擬人化。派手で、けばけばしい色と柄が人間を誘う。それを「派手に声掛けてくる」としたところがよろしいですね。



炎天下昔気質は水飲まず

伊藤浩睦

職人さんは自分に厳しい人が多いからね。医学的な観点など全く無視。今どきの若いもんはガブガブ水なんぞ飲みおって、精神がふやけとる。



踊子と一緒に踊るつけまつ毛

大林和代

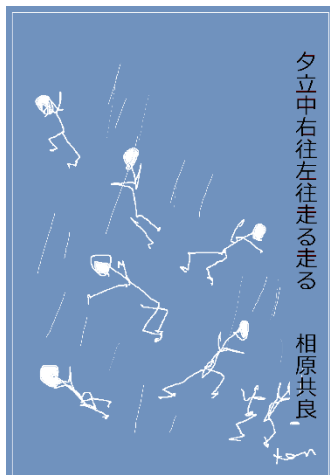
つけまつ毛の存在感を詠んだね。この句では、つけまつ毛と踊り子を対等な扱いとしている。擬人化と誇張の技は大したもんだ。



今日も又月の引力月見酒

高田敏男

月の引力ならば致し方ない。酒好きにありがちな責任転嫁の癖が出たね。花見酒なら花に、雪見酒なら雪に責任があることになる。



夕立中右往左往走る走る

相原共良

突然の雨に慌てふためくということはよくあること。その慌てぶりが「右往左往」「走る走る」で上手く表現され、動きのある句となった。



針のごと顔に降る降る花火降る

久我正明

夜の花火、揚げ花火の直下にいた。そこで感じたことを直感的に表現した。「針のごと」の表現には、花火の線と作者の恐怖が表現されている。